

令和8年度 中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修報告

工作室 製作技術班 東郷 徹宏

1. はじめに

本研修会は、国立大学法人等における教育・研究基盤を支える技術職員のさらなる資質向上と、大学や高専の組織の垣根を越えた技術ネットワークの構築を目的として開催された。全体講義で技術職員を統轄する組織の在り方や組織改革についての講義があり活発な意見交換がなされた。また最先端の技術の習得に焦点を当てるためコース別に分かれて、座学と実地研修を組み合わせた実践的なプログラムが組まれた。

2. 期間・場所

期間：令和8年8月19日～8月21日

場所：高知大学朝倉キャンパスおよび物部キャンパス

3. 参加者等

中国・四国地区国立大学法人及び国立高等専門学校機構の技術職員 22名

4. 研修内容

初日の全体講義では、高知大学が取り組んでいる組織や人事評価制度改革についての講義があった。二日目は参加者各自の希望に合わせてコース別に分かれて座学と実習が行われ、私が選択をした「海洋I」コースでは、東日本大震災の津波による堆積物が含まれる掘削コアを使用した実習が行われた。CTスキャンや帯磁率測定などの非破壊検査を行った後に、コアを半割して光学スキャン撮影を行ったり、色分析計を用いた分析を行ったりした。三日目は全体講義に戻り、高知県が抱えている問題を解決する研究内容の取組が3件紹介された。教員と技術職員が密接に協力しながら問題解決に取り組んでおり、技術職員のキャリアパスに変化が生まれている実例が紹介された。

5. まとめと感想

様々な組織の技術職員の方と組織改革についての意見交換を行った際、広島大学が直面しているのと全く同じ問題に直面しており、とても参考になる取り組みの意見を聞くことができた。またコース別の実習では、普段取り扱うことのない貴重な試料だったため、今後の業務に参考になる内容が多く得られた。地域に密着した問題解決の研究紹介では、地域の漁師さんを技術職員として雇用をして、海藻の陸上養殖技術の開発に取り組み、技術が完成した段階で大学発ベンチャーとして独立をするという社会実装の例が紹介されて、非常に感銘を受けた。